





塾長 田川 善史

### ■ 塾長コメント ■

コロナ禍の中、思うように活動が進みませんでした。「知る！」「見る！」「食べる！！」の分野で、それぞれの活動を終えることができたのは、地域の皆さまのご協力があったことだと思います。ありがとうございました。

募集で集まった塾生で、更に研究テーマを掘り下げて、活動開始しました。

実際に現地に足を運び、説明を聞き、見て、郷土の味を食すことで、この滑石の歴史に触れることができたように思います。

しかし、これまでの滑石の歴史の一部のみ触れたに過ぎません。今後は地域活動を通じて、多くの歴史に触れ、情報発信してまいります。

より多くの地域の方々に、今住んでいる滑石の過去に興味・親しみを持ってもらい、地域の声を聞いて、語って、共に未来の滑石を思い描いて、これからの歴史をつくっていく活動へつなげていきたいと思っています。

### ■ 塾の目的 ■

「地域の歴史を知ることによって郷土愛を育む」という大きなテーマを元に、長崎市北部の滑石というエリアの歴史や文化を深掘りすることで、長崎のまちを今以上に好きになってもらうキッカケになればという目的で塾を立ち上げました。

恋愛と同じように「好きになる」ということは、まず始めに興味を抱くこと(かな!?)。長崎のまちを好きになるためには、まずまちのことに興味を抱き、まちを知ることから！という、甘酸っぱい思い出から出発した企画でした(笑)。

### ■ 塾の研究・活動内容 ■

「滑石を知る」という塾の研究の源になったのが昭和 63 年（1988）に発行された全 463 ページに渡って滑石の歴史を調べ上げた「写真集成 長崎 滑石郷土史誌」（以下：滑石郷土史誌）。団地造成や当時のまちづくりに尽力した先代たちが編集に携わり、田畑だったこの地域が住宅地として開発されていく様子をたくさんの写真で見事に編纂。



昭和 36 年ごろの滑石盆地の中心部

当塾では、この滑石郷土史誌を元に地元・滑石中学校の生徒たちが総合学習で故郷を調べた冊子を教科書にして塾活動をスタート。

塾名にあるように「まちを知り、調べたことを実際に見てみて、さらに当時の食文化も味わってみる」という、立体的な学びの場を作り、塾生みんなで楽しみながら学んでいこうと研究を進めていきました。

フィールド体験型の研究では、この地域の守り神「滑石太神宮」の本殿内で実際に神事を体験。塾活動の安全や塾生の健康を祈願していただきました。同時に境内では、鳥居や石碑などに刻まれた年号を見て回ったりしながら 300 年以上の歴史ある神社の一面に触れる活動も実施しました。

さらに、農業地帯だった滑石の雨乞いから始まったと伝えられる「滑石竜踊」の研究にも取り組みました。本殿横の展示室で竜体を間近で見ることができ、実際に竜体を持たせてもらうこともできました。



郷土料理作りでは、滑石の先人たちが普段食べていたとされる「里芋の煮しめ」と「さば飯」作りに挑戦。失礼ながら、不得意と思われていた男性陣の包丁使いも手馴れたもので、和気あいあいと活動することができました。作った郷土料理は地域の人たちへ振る舞って味わってもらいました。

## ■ 塾活動の成果 ■

コロナ禍ということもあり、年度始めに塾生みんなで思い描いた通りの活動とはいきませんでした。活動できる期間にできるだけ 3 密を避けたフィールド体験を組み込むことができました。日常生活の中ではできない体験を多くできたこともあり、塾生一人ひとりの滑石地区に対する関心があらためて高まっていたようです。「住宅地としての認識しかなかったこの地域のイメージが変わった」（近隣町から参加の塾生談）。「実は知らないことだらけでした。見て体験することでもっとこのまちが好きになった」（滑石に暮らす塾生談）。

また、塾活動の成果を市民や地域の人たちに発信する取り組みとして「滑石太神宮」のプロモーションビデオを塾生が手作りで制作したことは大きな成果となりました。塾生の小学生をレポーターに起用し、約 7 分の動画に収録。この動画は今後、小学校や中学校の地域学習での上映、ふれあいセンターや公民館、自治会集会所での上映、地域コミュニティ協議会などで活用してもらう予定です。

さらに、子どもたちに歴史あるまちの魅力を知ってもらうために、ハンドブックタイプのリーフレットを制作。まちを好きになるきっかけになってもらえればという願いを込めて、地域の小中学生に配布します。

滑石に限らずですが、人の暮らしがある地域には、必ず先人たちが築いてきた歴史や文化があり、1 年間の活動を通して学んだ 11 名の塾生にとっても、滑石地区のことがあらためて好きになる有意義な 1 年となりました。

## 知る！見る！食べる！！滑石ふるさと歴史塾 活動記録

日 時	場 所	内 容
<b>令和3年</b>		
7月16日(金)	滑石地区ふれあいセンター	塾会議 本塾の目的説明、自己紹介、役割分担、日程確認
[中止] 8月27日(金)	滑石地区ふれあいセンター	塾会議 ※新型コロナウイルス感染拡大により中止
[中止] 9月17日(金)	滑石地区ふれあいセンター	塾会議 ※台風接近のため中止
9月24日(金)	滑石地区ふれあいセンター	塾会議 深掘りしていく学習分野を決定
10月15日(金)	滑石地区ふれあいセンター	塾会議 他の塾の活動状況を塾生へ紹介 講演会・散策の準備
10月23日(土)	滑石太神宮	【知る】講演会：太神宮・竜踊り 【見る】散策：太神宮・参道・団地造成記念碑
11月5日(金)	滑石地区ふれあいセンター	塾会議 調理実習の準備
12月19日(日)	滑石地区ふれあいセンター	【食べる】調理実習：郷土料理
<b>令和4年</b>		
1月9日(日)	地域コミュニティ事務局	伝習所まつりと塾会議の準備について打ち合わせ
2月19日(土)	リモート（在宅）	塾会議の日程調整 研究成果取りまとめ準備
2月23日(水・祝)	滑石太神宮	ショートムービー制作 事前撮影
2月26日(土)	滑石太神宮	ショートムービー制作 リポーター撮影
3月2日(水)	リモート（在宅）	パネル写真展準備（写真選定） リーフレット制作準備（素材整理） ショートムービー制作準備（素材整理）
3月13日(日)	滑石地域センター	パネル写真展会場設営
3月25日(金)	滑石地域センター	パネル写真展会場片付け

## 歴史・文化に触れるフィールド体験が

### 塾生1人ひとりの記憶に保存!?

コロナ禍で始まった令和3年度の塾活動。人が集まることが制限される中、塾生で話し合っただけで決めたのが、3密を避けたフィールド体験中心の塾活動。塾のメンバーに小学生からシニアまで幅広い世代が集まったこともあり、みんなが楽しみながら研究できるプログラムを企画しました。



塾会議 塾生からの提案



テーマの絞り込みにも一苦労  
(あれもやりたい、これもやりたい)

制限のある活動期間だったこともあり、テーマを「滑石太神宮(知る)」「滑石竜踊(見る)」「郷土料理(食べる)」と大きく3つに絞りました。

『知る』では、この地域の守り神「滑石太神宮」を研究。神社の宮司に塾活動の趣旨を理解してもらい、塾活動の安全や塾生の健康祈願を体験。



滑石太神宮で安全健康祈願

普段、祭事以外では入れない、本殿での凛とした雰囲気の中での祈願は、初体験の塾生も多く、終わった後にホッとする塾生の記憶に深く刻まれたようでした。

『見る』では、農業地帯だった滑石の雨乞いから始まったと伝えられている「滑石竜踊」を見学。普段は立入禁止の展示室に入れていただき、竜体を間近で見ることができました。



迫力の竜体

竜体の胴体を竹で作ることや、ウロコの1枚1枚までが手作りされていることなども知ることができました。実は今でも竜体制作の職人が滑石にいるという話にも驚きました。



竜体を目の前に宮司さんより解説

『食べる』の郷土料理づくりでは、この地域の先人たちが普段食べていたとされる「里芋の煮しめ」と「さば飯」作りに挑戦。



小学生シェフも活躍

農業地帯だったこの地域らしく、ごぼうや人参、大根、里芋など根菜の煮しめと、焼き鯖を混ぜ込んだ「さば飯」を塾生で手作りして、地域の人たちにふるまいました。



味は・・・



地域へのふるまい告知



地域の方へ郷土料理のふるまい



「さば飯」 「里芋の煮しめ」

### 塾生だけにとどまらず

### この地域の歴史文化を地域に発信！

塾生の中から「このまちの歴史文化を地域の人たちにも知ってほしい」という声があがり、研究のアウトプットを塾生で模索。令和

3年10月に新設移設した長崎市の地域の窓口「滑石地域センター」に地域の歴史がわかる「滑石ふるさと写真展」企画を提案。3月下旬の2週間、来所者向けの手作りの写真展を開催できました。



手作り展示ネットに写真を掲示

さらに、デジタル好きな塾生のアイデアで「滑石太神宮」のプロモーションビデオを制作することに。塾生の中にいた小学生2人をレポーターに起用し、約7分の動画を制作。今後、小中学校の地域学習や地域コミュニティ協議会などで活用してもらう予定です。



「滑石太神宮」のプロモーションビデオ

また、歴史塾の活動紹介と地域の歴史を手軽に手に取って見てもらえるように、リーフレットを制作しました。

方言クイズも交えて、楽しく読んでもらえる内容に仕上げました。



リーフレット

今回取り組んだ伝習塾は令和3年度1年間限定の活動でしたが、実際に学んだことをデジタル写真素材や動画として残して、地域コミュニティ協議会という地域団体へ繋がられたことは、伝習塾の成果物が地域の未来に貢献するのではないかと考えています。

この塾の参考書とも言える昭和63年に発行された「滑石郷土史誌」のように、この先の塾の成果物に触れた市民が、このまちに興味を抱き、滑石のまちを大好きになるキッカケになれば取り組みの成果だと考えています。

塾活動にご協力いただいた皆さん、ありがとうございました!

## 知る！見る！食べる！！滑石ふるさと歴史塾

塾長	田川 善史				
1	大平 忠一	21		41	
2	川崎 加奈子	22		42	
3	佐藤 康彦	23		43	
4	白地 和幸	24		44	
5	平 恒士郎	25		45	
6	平 剛志	26		46	
7	高田 涼美	27		47	
8	田川 美瑚都	28		48	
9	田川 美佐子	29		49	
10	並崎 加奈子	30		50	
11	藤田 進	31		51	
12		32		52	
13		33		53	
14		34		54	
15		35		55	
16		36		56	
17		37		57	
18		38		58	
19		39		59	
20		40		事務局員	滑石地域センター 中村 泰生